

MAENAN SAH Journal Vol.55

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Aug. 29th, 2024

『生徒会』による『硬式野球部応援活動』が開催されました。

今年度も夏の甲子園予選に出場する硬式野球部を応援するために、生徒会が発案し、有志応援団を結成、そして7月8日(月)高崎城南球場にて富岡実業高校との一回戦の試合の応援に行きました。思い起こせば、昨年の生徒会会長が『硬式野球部の応援を全校のみんなでしたい』という思いから、校長先生への直談判・企画書作成・応援団の指導など、当時の生徒会本部役員とともに取り組み、最終的に有志生徒40名を組織し、実施できました。その当時、『SAH』という言葉にまだなじみがなく、どのようなことをするのか模索していた時期に、生徒会が『企画立案、実行する』という『自ら考え、判断し、行動できる生徒』を体現したこの活動がまさに本校SAHの始まりでした。今年度の生徒会本部役員も先輩たちの意思を引き継ぎ、試行錯誤しながら、無事に企画を成功させることができました。今回のJournalでその過程と携わった生徒会の声を届けます。

生徒会顧問：原澤正樹

1. 応援のプレゼンテーション



プレゼンテーションの様子



作成した資料

生徒会から参加生徒それぞれに帽子を配布し、当日被ってもらう。強制参加ではないため、自主的に参加した生徒は、自分の体調は自分で整えるということで、各自対策をする。(扇風機、塩分チャージ、制汗シートなどを持ってくるように、生徒会から呼びかける)それも主体性であると考えている。体調が悪くなった場合は、近くの先生、生徒会本部役員に伝え、日陰に入るように、生徒会からも声掛けを行う。

野球部の試合の日程が決まるとすぐに、去年の資料をもとに募集要項を作成しました。去年とは異なり、熱中症対策について・有志との連絡手段方法について盛り込み、プレゼンテーションを行いました。校長先生・教頭先生から『当日、観客席で具合が悪くなった生徒がいた場合の対応』、『土曜日に実施される二回戦の応援募集』についてご指摘がありました。その指摘を受け、生徒会本部役員は、『万が一』にも備え、引率の教員を増やすために、直接先生方をお願いに行きました。二回戦は土曜日ということもあり、学校からのバスの手配をやめ、自己判断で応援に来た生徒を即席で生徒会が指示しながら応援するという形式に変更しました。修正した資料を基に、二回目のプレゼンテーションを行い、無事に企画が行われることが決定しました。

2. 応援有志募集と応援練習

定員が限られている中で有志を募集したところ60名以上の生徒が応募し、抽選で参加者を決定するほどでした。参加者が決定したあとに、当日の注意・応援のマナーについて説明をしました。多くの生徒が応援に行くのが初めてであり、動画を流しながら応援練習を行いました。最初は声が出なかった有志の生徒たちも生徒会長を中心として声掛けや見本を見せることでだんだんと応援の声が出て、まとまりのある応援練習会となりました。



有志生徒への説明



応援練習風景 ①



応援練習風景 ②

3. 7月8日（月）城南球場にて試合開始

当日は天候にも恵まれ、吹奏楽部・生徒会・有志で応援に参加しました。今回初めて相手校の応援団とエール交換を行い、生徒会会長の荒木皓陽くんが代表してエールを送りました。吹奏楽部の演奏に合わせて応援、そして校歌を歌い、『チーム前南』として前南野球部を鼓舞しました。その応援団の気持ちに応えるかのように、見事『5-0』で勝利を収めることができました！



有志による応援①



有志による応援②



野球部試合風景



応援終了後のミーティング

4. 生徒会本部役員の声の紹介について

二回戦は7月13日（土）に高崎城南球場にて常磐高校と対戦しました。生徒会・有志生徒・吹奏楽部の応援も懸命に応援しましたが、惜しくも敗れてしまいました。野球部応援は前南生のSAH活動の『記念すべき第一号』の『リニューアル版』です。この企画を通して生徒たちは『挑戦する気持ち』『試行錯誤する大切さ』を学んだはずです。また、今回たくさんの先生方のサポートを受け、この企画は実現できました。本当にありがとうございました。最後に今回の企画を立ち上げた生徒会の代表の声を届けたいと思います。

去年に引き続き今年も野球部応援を実施しました。準備段階ではプレゼン時のご指摘も多くあり、野球部保護者会の方とお話しさせていただくこともあり、慣れないことが多く、大変なこともありましたが、それゆえに達成感を感じることができました。SAHが取り入れられ、多くの活動に取り組む中で、生徒の行動意欲も高まっていると思います。SAHを通し、今後多くの学校でより大きなことも挑戦していけるのではないかと思います。

3年 生徒会長 荒木 皓陽

野球部応援では参加者一人一人が「野球部を応援したい！」という熱い気持ちを持っていて、前南生の一体感が感じられたと思いました。このようなSAHの取り組みは、『多くの人を良い方向にまきこんでいく』という点で大きな可能性を感じます。生徒会から始めた野球部応援も有志生徒や先生方、吹奏楽の皆さんなどの協力が不可欠でした。このように多くの人の協力を得て、素晴らしい野球部応援ができたことが私にとってSAHの可能性が広がった瞬間です。

2年 生徒会 腰高 紗依

当初は、昨年もできたから昨年の資料の一部を変えればできるだろうと甘くみていましたが、実際には考慮しなければならないことが多く大変でした。そして来年の野球部応援を実施するための交渉は今回の経験を活かして一発でOKが出るように頑張りたいです。また、SAHは『生徒が本気で何かしたい』という気持ちが大切であり、これまで行動を抑えていた生徒にとっても動きやすくなったと思います。

2年 生徒会 八木 悠翔

このプロジェクトを通し、『誰に言われなくても先を見て、自ら考えて行動する』ことが大切であると再確認できたと考えます。また、全て自分たちで解決しようとするのではなく、不明な点があれば先生方に相談することも重要だと学びました。生徒同士の横のつながりでは新たな視点や発見がありますが、その新たな視点を取り入れつつ、実現に向けて動くなら、先生方との縦のコミュニケーションが大切です。そのどちらも組み合わせることがSAHの可能性に繋がると学びました。

3年 生徒会 関 凜音

上の代表生徒のコメントを読んで、どのようにお感じになるでしょうか？『生徒の成長はすごい！』と感じざるを得ません！昨年引き続き行った野球部応援プロジェクトですが、まったく同じことを行ったわけではないし、確実に生徒のなかでの学びは深まっていることが読み取れます！かつての学びはペーパーテストの結果や偏差値といったものに重きが置かれていましたが、SAHの学びは『すぐに社会で役立つ』レベルに達していることがよく分かります！今後も私は前南生の応援団です！フレフレ前南！教頭 星野 亨

★校長より★夏の野球部の応援について生徒会本部役員から最初のプレゼンを受けたのは、6月21日の昼休みでした。かなり完成度は高かったのですが、現実には実施するとなると、お金の問題や安全面の問題、引率職員の問題など色々と考えることが出てきます。それも生徒に考えてもらうのがSAHです。今回も生徒会役員の皆さんは、事務長さんや野球部の保護者会との相談、先生への依頼、応援団の募集、練習等を生徒自身で行い、実現することができました。野球部も見事、一回戦を突破し、野球部と応援団が一体となるととても良い経験になったと思います。今後も、皆さんのアイデアで出された企画で良いものは、検討し、皆さんの力で実現する方向を進めていきたいと考えています。成功するかどうかは分からなくても、まずやってみよう。校長室で待っています。校長 原 拓史